

【中国の端午の節句「端午節」】

晴天の青空に、鯉のぼりが元気に泳いでいるのを見かけます。

日本の5月5日は、端午の節句として、男の子の健やかな成長を祈願し様々な行事を行う風習がありますね。鯉のぼりや五月人形を飾ったり、柏餅や粽を食べたり、菖蒲湯に使ったりと家族みんなでお祝いする日の1つです。

この風習は、実は、お隣中国からやって来たであろうという説があります。中国は、今でも端午の節句（中国語名：端午節）は、旧正月を祝う春節、お月見を祝う中秋節と並ぶ三大伝統節句として、とても重要視されています。ちなみに旧暦の5月5日にお祝いをしますので、今年の端午節は、新暦の6月9日になります。

では日本の「端午の節句」と中国の【端午節】はどこが似ていてどこが違うのでしょうか？中国でこの日に行われる行事といえば、「ドラゴンボートレース」が有名で、国際大会も開かれるほどの競技です。舵取りが1人、太鼓をたたく人が1人、18人が龍を模した飾りのある船に乗り、全員で力を合わせて漕ぎ、ゴールを目指します。この船に龍の飾りがあるので、ドラゴン（龍）レースという名前になりました。

このスポーツは、古代楚の国の政治家であった屈原の話に由来します。屈原という人は、とても正義感が強く、国を良くしようと頑張っていたため、多くの民衆から慕われていました。そんな屈原に国王や同僚は嫉妬し、彼らの陰謀により、屈原は失脚させられてしまいます。その後、屈原は国の将来を儚んで5月5日に入水自殺をしてしまうのです。民衆は屈原の遺体を探すために川に船を出しますが遺体は見つからず、屈原の体が川の中で魚の餌になるのは悲しすぎると考えた人々は、船の上で太鼓を叩いて、大きな音を出し、魚を追い払ったり、川に粽をまいたりしました。そのようにして人々は屈原を偲んで川に船を出すという習慣が生まれて、それがドラゴンボートレースとして発展していったそうです。今では、公式なスポーツとして行われるレースと、民俗的行事のお祭りとして行われるレースがあり、旧暦5月5日には中国各地で様々な形で楽しまれています。

また端午節に食べるものは、日本と同じ粽を食べる習慣があります。先ほどの屈原の話からも分かるように古い時代から粽は食べられていて、地方や民族によって具が異なったりするので、中国各地に「ご当地ちまき」があるそうです。また屋台などではできたてのちまきを売っています。

更にこの時期は夏に向かって熱くなる季節でもあるので、昔から病気にかかりやすく、亡くなる人も多かったそうです。そのため人々は薬草を摘み健康を祈願しました。その中でもよもぎや菖蒲は邪気を払う力があるとされていたので、菖蒲酒を作って飲んだり、よもぎで人形を作って飾ったりしたそうです。このように屈原の話と無病息災を願うことを合わせることで、端午節を重要視する習慣が根強く残っているのだと思います。

このように日本と中国、両方を知っていただいて、更に中国に興味を持っていただけたら嬉しいです。また中国人のお友達がいる方は今度会った時の話の種にでもしてみてください。

